

に至るわけです。

このように、トチノミはその一つの例だと思うんですけども、私たちが今食べている植物、その利用方法とか食べ方とか食べる場所ね、そういったものは先人たちの無数の試行錯誤、中には犠牲になった方もいるでしょう。その結果なんですよ。これはね、極めて重たい事実だと思うんです。そのことをやっぱりジオパークなどを通じて、きちんと伝えていっていただきたいなと思います。これは私の思いですけども、皆さんにもその思いが伝わっていただければと思います。

これにて、私の一般質問は閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を40分といたします。

〈午後3時31分 休憩〉

〈午後3時40分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

それでは、一般質問の最後でございます。皆さん、またお疲れのことだと思っておりますが、もうしばらくお付き合いのほどをよろしくお願ひしたいと思っております。

さて、一般質問に入ります前に、一言申し上げたいと思っております。

去る7月2日午前10時14分、吉岡静夫さんが、老衰のため、川崎市の高齢者用住宅で死去されました。享年87歳。葬儀は、近親者のみで行ったそうです。

糸魚川市議を経て、2001年、旧糸魚川市長、糸魚川市最後の市長を務めました。そして、合併論議をまとめた市長でもありました。新市では、市議会議員として復活しており、2年前までは同僚の議員として活動されておりました。

故吉岡氏の死去は、私は数日たって知ることとなりました。それは、市長経験者としてあまりにも突然の訃報であり、そして、あまりにも寂しき他界でありました。

吉岡氏とは、今のクラシックカーレビューの前身となるフォルクスワーゲンクラブフェルディナンドで一緒し、市議会議員選挙では、同期の当選。以来、市議会議員として、また市長として、同じ時間を過ごしてまいりました。

主義主張の違いから激しくやり合ったこともありましたが、間違いなく、故吉岡静夫さんは、鮮明に、そして鮮烈に糸魚川市の1ページに、その名を刻む方でありました。最後のお別れを言う機会もございませんでしたので、この思い出深い議場から、謹んでお悔やみを申し上げるとともに、一瞬ではございますが、黙禱を捧げたいと思います。心ある議員さんは、ご一緒に黙禱をお願いいたします。

それでは、故吉岡静夫市長をしのんで、黙禱。

ありがとうございました。

激しくやったから、ほとんどライバルというか敵対してましたんでね、私がこんなこと言うのは珍しいかと思えますし、これを今日の一般質問でやるとは誰にも言ってないです。家族にも言いませんでしたが。その平成3年に初めて当選したときの集合写真であります。これを田原 実議員が、お父さんと私が一緒に写ってるという貴重な写真だよということで今日ですよ、たった今見せてもらいました。

この平成3年の集合写真には、木島長右エ門さん、山田紀之さん、吉岡静夫さん、そして米田徹さん、その若々しい頃、この4人の市長さんが一緒に写ってるっていう非常に珍しい、もちろん横山人美さんのお父さんも、田原 実さんのお父さんも、この中にいます。ほとんどが亡くなってしまったという集合写真でございますけどね。

さて、思い出話のほうに行ってしまいましたが、これより一般質問を行わさせていただきたいと思えます。

1、人口減対策と少子化対策について、糸魚川の未来を考え財政面も考慮し、総合的に持続可能なまちづくりに取り組むべきではなからうか。

人口が4万人を割り込み、大きな問題として取り上げてまいりましたが、それから半年余りが経過し、本年8月の人口は3万9,191人となり、人口減少は歯止めがかからず、逆に拍車がかかってきております。

これまでも「医・職・住」への取組、イトヨプランなど総合的な取組を提言してまいりましたが、このような状況をどのように分析し、対策を講じているのかお聞かせください。

(1) 人口減問題をどのように分析しているのか、データも併せてお聞かせください。

(2) 保育士不足や会計年度任用職員との格差是正、給食費の是正などを図るべきではないか。

また、保育園の民営化にも積極的に取り組むべきではないのか。

(3) 糸魚川市で子供が産めない状況をどうするのか。

(4) 未満児保育の無償化について取り組むべきではないのか。

(5) 駅北子育て支援複合施設について、パブリックコメントや市民の声も厳しいものが多いです。どのように対処していくのかお聞かせください。

(6) 図書館や歴史民俗資料館の老築化も著しいが、整備計画などございますでしょうか。

(7) 新潟県が起債許可団体になったが、どのような影響を及ぼすのか。

2、ジオパル・鉄道ジオラマの運営について。

新幹線駅開業と共にオープンしたジオステーション・ジオパル内に設置された鉄道ジオラマ。その管理運営、メンテナンスはどうなっているのかお聞かせください。

3、いじめ・不登校の現状と対策について。

不登校は全国的にも過去最多を記録し、糸魚川市においても昨年度比、2倍強を記録するなど深刻な状況となっております。

いじめ・不登校の現状と対策について、どのように対処しているのかお聞かせください。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

まず冒頭に、吉岡前議員、前市長の黙禱ありがとうございます。私も本当にする機会はなく、いたわけではありますが、この機会にみんなと共有しながら、黙禱できたことに感謝申し上げる次第であります。

それでは、1番目の1点目につきましては、住民基本台帳では4年度における出生と死亡による自然動態で674人、転入・転出による社会動態で120人減少しております。年齢別では、合併した平成17年と令和5年で比較いたしますと、25歳から34歳までの男女ともに4割以上の減少がいたしておる次第であります。

2点目につきましては、保育人材の確保や処遇改善等は必要と考えており、引き続き保育の質の向上に取り組んでまいります。

また、今年度から保育の在り方検討を進めており、民営化も含め、方向性を示してまいります。

3点目につきましては、引き続き、産婦人科医の確保に取り組むとともに、分娩が再開できるまでの間は、交通費、宿泊費助成、妊婦情報事前登録制度などにより、安心して妊娠、そして出産をお迎えいただけるよう取り組んでまいります。

4点目につきましては、これまで市独自の軽減策を行っておりますが、今後、国の動向を注視してまいります。

5点目につきましては、様々なご意見を頂いており、引き続き取組を進める中で、市民の理解に努めてまいります。

6点目につきましては、築40年以上が経過していることから、現状と課題等を整理する中で、整備に向けた検討を進めてまいります。

7点目につきましては、県では、県民生活に直接的な影響がないように取り組むとしており、現段階では、市への大きな投資的経費の減額はありますが、今後の状況について注視してまいります。

2番目につきましては、施設管理と運営は、糸魚川市観光協会に委託しており、ジオラマの定期メンテナンスや大規模修繕については、ジオラマ製作業者に委託して、施設の維持を行っております。

3番目のご質問によりましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいた

します。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

3番目につきましては、当市の4年度のいじめの認知件数は100件、不登校児童生徒数は49人と増加傾向にあります。いじめの未然防止と早期発見を一層図り、いじめが重大化しないように努めてまいります。

また、今年度中に糸魚川市いじめ防止基本方針、並びにいじめ防止等の行動計画をより実効性のあるものに改定してまいります。

不登校児童生徒につきましては、各学校で校内別室対応や家庭訪問等を行っているほか、市では、適応指導教室を開設し、学びの場を提供しております。また、不登校児童生徒の保護者支援のために、不登校を考える親の会「結の会」を毎月開催しております。今後、これら既存の取組を充実させるとともに、関係機関と連携を図りながら、さらなる支援策を講じてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは2回目の質問に入らせていただきます。

順番を変えまして、今回は、ジオパル、ジオステーションにつきましての質問を最初に行いたいと思います。

さて、ジオステーション、ジオパルでございますが、どのような目的で造られたのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

北陸新幹線の糸魚川駅ができるということで、やはり新たな観光客を取り込もうということで、作製された施設だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

市長、なぜそのテーマが鉄道ジオラマになったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川市の新幹線の駅舎について、やはり多くの皆様方からおいでをいただきたい。各新幹線の駅は、創意工夫を凝らして進めているところがございます。そういう中で、糸魚川市の規模といたしましては、やはりそういった大きいとこと比べて、どういう駅にしていけばいいかというところが、課題にあったわけでありますので、そういう中で、この北陸本線は、並行在来線となる路線であって、そして大糸線があり、そして新幹線が通っておる。そういう鉄道の、やはり駅というものを生かした中で、やはり皆さんからおいでいただくことが大切でなかろうかなど。そうしますと、やはりこの鉄道を愛する人の中においては、鉄道の模型だとか、そしてまた、子供たちのようなプラレールというものを好きな方もおられる。そういった人たちが、ここに、駅に集まって、本物の電車が走る、そしてまた、模型が走ったり、おもちゃが目の前にあったりという形が、やはりいいのではないかと。やっぱり収益性というのはなかなか難しいところがあるかと思うわけでございますので、やはり収益性を求めて、そういった施設にしますと、非常に家賃といたしましうか、結構高くなる部分がありまして、公共性が高ければ、そういったものが低く抑えられるという部分もありましたので、公共性をやはり示していこう、そして、キハ52というなくなる電車も、ディーゼルカーもあったもんですから、それもやはり払い下げていただいて、展示をすることによって、鉄道、または電車、そういったものが好きな人が集まっていただけるような駅にというコンセプトで設置をさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

木島長右エ門市長がね、フォッサマグナミュージアムを造ったように、このジオパルというのは、米田市長の発想によってできた鉄道の一つの形ですよね。そして、そこにはキハ52が来たり、くろひめ号が展示されたり、やっぱり全国、また各地から、観光客だけじゃなくて本当に鉄道マニアも集結する場所になってきた。しかもこの施設はさ、市長、あの当時、私は特別委員長だった。これはすんなりいったもんじゃないですよ。何でこんな鉄道模型をここに作らなくちゃいけないのか。しかも、高額な建設費もかかる。それで、議員と一緒に、全体で、ほかを見にいったり、そういう会社を見たりして、ここに決定した。

でき、そのジオパルですが、最近、市長、見にいってますか。大分マニアから、クレーム来てますよ、ネットのほうでも。私は、最初にお聞きした、何のためにとって。やっぱり人を集めるため、老若男女集めて、そして糸魚川の一つの観光としてのやはりメッカにしたかった。私はそれで同意

したんです。その考えは間違っていない。でも、やっぱり産んだら子供の世話を見なさいよと思えますね。いかがですか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

私は、当初のコンセプトが、やはりいいと思ってますし、そしてそれによって、今いろんなところからおいでいただいて、楽しんでいただいている部分があるわけでありますので、私は今もそのとおり進められているものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

やっぱり市長は、何も知らないんだな、これな。担当課のほうにはさ、もう春先にこの問題は言っていましたよね。列車につけられた、デジタルに代わって、列車につけられるヘッドカメラ、これの具合が悪くて、要するに接触不良、1回再生不良になると復活するまで時間かかるとか。レールの基盤なんですけども、やはりそこがガタガタしてると、あんな小さいもの、物すごい影響を受けますよね。これも直ってないでしょう。

それからWi-Fiにおけるそのカメラ、これもそうなんですけど、専用のものじゃないんです。ドローンについてるものをここに流用してる。いわゆる専用のものじゃないです。これなんてマニアの人に言わせると、これがきっちりしたものでなかったら、やっぱり電波法上の問題になるんだそうです。目的外利用、やっぱりそういうことをやっぱりしてはならない。

さらに、列車や電波、そういうものを安定させるためにいうと、やっぱり電気を多く流すんだそうです。電気を鉄に流すと、静電気の影響でゴミが集まってくるんですってね。それを掃除するのはとても大変なんだそうです。いわゆる手間がかかる。

担当課にお聞きしますけど、こういったことは、ちゃんと市長に報告してくれましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほど古畑議員のご指摘の工事につきましては、令和4年度実施いたしました大規模修繕の件だというふうに思っております。その中で、今ほどお話ありますように、大きく問題点が一つありまして、一つは、今までアナログで映像を映しておったものをデジタル化させていただいております。

また、レール等を修繕しておりますので、そのレールの修繕に伴いまして、1か所だけ、長い車両を走らせたときに接触するという事案が、改修後に発生しております。

しかし、その事案につきましては、検収をして、まずこちらのほう引き取っておりますので、その後、発生した事案でありますことから、運用の中で改修、改修といいますか、手直しのほうさせ

ていただいていたところでございます。

今ほど古畑議員おっしゃるように、その細かい点につきましては、大変申し訳ありませんが、市長のほうまでは、報告のほうをしておりませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

そこで、お聞かせさせてほしいんですけどね、このジオステーションには、今まで幾らかけたんですか。建設、そして大規模改修、そして年間のメンテナンス、これらはどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

七、八年前に、平成27年2月ですか、オープンしてから、総額といいますと今手元のほうに、申し訳ございませんが、持っておりません。

ただ、やはりジオラマの設計業務につきましては210万円、また、ジオラマを作製するに当たりましては、4,298万4,000円かかっております。

また、先ほどちょっとお話させていただきました大規模修繕につきましては、昨年450万円かけさせていただきまして、修理のほうをさせていただきまして。また毎年、やはり保守管理ということで、業者のほうにメンテナンスを年3回お願いしております。それは、年度によって事業費がちょっと違いますが、約50万円程度、お支払いさせていただいております。

あと、やはりジオパルの運営につきましては、先ほど市長答弁にありますように、観光協会のほうをお願いしております。観光協会のほうには、そのジオパルの管理運営費ということで、総体的な委託費の中から経費のほうは見ていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

最初の4,500万をかけて建設したと。

そこでだ、いろんな不具合だとか電波法の管理において、大規模改修を余儀なくされた。

さて、その大規模改修は、どのような条件の下に何をやってほしくて、お願いしたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今回の大規模改修につきましては、3点のほうをお願いしております。

1点目は、先ほどちょっとお話ししましたが、レールの改修ということで、ジオラマの改修、また、デジタルカメラカーに改修。先ほどアナログからデジタルカメラカーということの改修です。あと、それに伴いまして、モニターのほうも入替えということで、その3点につきまして、委託のほうをさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

市長、これどう思いますか。さっき指摘した、今でも不都合のあるところはありますよね。それを改修するために大改修費って出したんです。だけども、いまだに改修されていません。これは何なんですか、一体。やるやるって言って、金だけ取って何もしないこの業者、株式会社ディディエフですか。それを容認する行政、おかしくないですか、これ。詐欺、言ったことをやらない業者、しかもそれをそのままにしている行政。これ何ですか。なれ合いなの。なれ合いなんですか。仕事頼んで、自分の家でさ、ここ直してくれっていうところ、いくらかかりますよと言われて、そこをお金出したけど、何にも直ってないじゃないですか、これってなりませんか、普通。何ですか、このふざけた予算。何も、俺まだしゃべってるだろう。何も改修できてないものに、何で改修費払うんですか。その成果も結果も出ないものに、行政ってこういうことやるでしょう、予算つけたからって、結果も成果も出ないのに、予算だけ上げてしまうみたいな。どうなってるんですか、これ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

先ほどの大規模改修の委託業者につきましては、やはりまず、ジオラマの設計をお願いした業者でありますし、またジオラマの作製のほうをお願いした業者でございます。ですから、やはり私らのジオパルのジオラマについては、一番精通されている業者ということで保守管理、また今回の大規模改修のほうをお願いしたところでございます。

また、今ほどの大規模改修についての不具合というのは、私らが委託したものを検収した後、引き受けた後に改めて発生したものでございます。ですから、委託期間の中で竣工ということで検査のほうをさせていただいたときには、不具合なく動いておったものというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

なんなら証人を呼んできてもいいですけどね。ここが違いますよ。この電波がうまく通らない。このカーブでは長い列車同士がぶつかってしまいますよ。それによって傷が発生してしまいます。

さらに、線路が凸凹であります。この駅を新しく作ったほうがかっこいいですよ。どうぞ作ってくださいって言われたのに、作ったら、勝手に構ったと言って怒られた。それを指摘した、非常に詳しいマニアックな職員の方が、その摩擦によって辞職されました。

市長、この施設を造るときに言ったでしょう。フォッサマグナミュージアムも、例えばクラシックカーレビューにしろ、人を育てない限り、仏作って魂入れずと一緒になんです。どんだけ立派なものを作っても、その分ちゃんと知識を持った人がそこに入らなければ、いなければ、その施設は駄目なんですよ。

おまけにね、何でこんなに厳しくね、商工観光課に言うのかというと、実はこの相談受けたのが3月なんですよ。4月に新しく変わってくるってことでね、関澤 一さんですか、その新しい係、その人が来てからやろうということで、その話もしました。だから何だっけ、ディディエフの会社の社長、これ導入するときに1回会ったっきり、後は会ってない。だからメンテナンスで糸魚川に訪れるんだから、私も呼んで、話させてくれていうのに1回も呼ばれたことないです。私が、仲裁の労を取った抗議してきた関係者の方と、そして課長さんや係長さんに会わせてるんですよ。で、頼むよと。言ってみればさ、ジオラマの一つの改修だから、もうクレームで直せよと。

それともう一つは、これだけの優秀な人材というのは、なかなか手に入らない。手に入らないというか、お会いできないでしょうと。これは頭を下げて戻ってきてもらうか、学芸員の格好で、もう一回入っていただきなさいと。それは分かった、やりますと。やります、もしくは調整させてくださいって言ったんです。それから、暑い夏の猛暑が終わっても、一言も連絡ないですね。連絡なけりゃ9月議会でやるよって言っても、何も連絡ないですね。だから、今回は1番手の一般質問を持ってきました。

市長、いきなり言ったんじゃないです。ちゃんと駄目だよ。人を生かして、それから修理するのもいい、改修するのもいいけれども、ちゃんとそれは結果を出して、それに注文と見合ったものじゃないきゃ駄目だよって言ってあります。市長、どう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

不具合が生じたり、ある程度のやっぱり年数がたち、そして、非常に好評であるものですから、かなり老朽化といいたいでしょうか、修理、加除しなくちゃいけないという話の中で、大規模改修というのを聞いたわけであります。

そういう中で、私は時々行って、見る中においては、やはり今ほど議員お話しいただいたように、やっぱりそこにいる人たちがやはり本当にあの専門家になっておられて、非常においでいただいた方々に丁寧に対応してもらってることを考えて、非常にうれしく思っておる次第であります。やはりそういった、ただ単に施設だけではなくて、やっぱり対応するマンパワーがいいと、やっぱりお客さんも来るわけでありますので、私はそうなってくるものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

市長ね、その意見は全く一緒なの。例えば今回、クラシックカーレビューをやられている、まさにミスタークラシックカーと言われてる大久保峰生さんなんか、あのイベントは大久保さんがいなければできないと言われてます。私も30年間付き合っただけですけどね。あのイベントにしたって、去年30回をもって終わりにするという話を、それは幾ら何でも寂しいじゃないかと。今年は規模を小っちゃくして、市内パレードみたいなものを中止にして、それでもやっぱりやった、やってほしいということで。それで、こないだ3日の日にやって、大盛況に終わった。

でもやっぱり人を集めるには、やっぱり人なんです。やっぱり大事。その人間というものを大事にしなきゃ駄目。

それからね、お金の問題も、言いたくはないけど、結果が出ないものにお金は無理ですよ。返してください、返納してくださいよ。そして、ちゃんと直ったら払ってください。そのための予算なんでしょう。大規模改修やったときの議員、誰なんですか。そういうところをちゃんと見て、結果に応じて予算というものを執行していかなくちゃ駄目でしょう。これ結果、何、直ったかどうかどうかの確認しないでやったのか。それともそのときは直ってたのか。後になって問題が出たのか。これやっぱりそういうことまでしっかり見なくちゃ駄目。

さっきも言ったようにさ、目利きになる人がちゃんといないけりゃ駄目なんです。平成時代の茶碗なのか、その辺の100円ショップで売ってる茶碗なのか。骨董品というものは、やっぱりそれなりの目利きの人が見ないと区別つかないよね。全部一緒です。車でも、ジオラマでも、鉄道でも何でもそう、やっぱり我々から見れば、ごみみたいなもんでも、これはすごいってなります。さっきご高説を賜った宮島さんもそうですよね。彼が見れば全然、うちらは落っこってる石かもしれんけど、それは珍しい石ですわねとかなるかもしれない。そういう人がいるからこそ、専門の業者とやり合えるんですよ。言ったこと全然違うんじゃないか、直ってないじゃないかと。じゃあ今度は、それを指摘した職員を首にするんでしょう。それあんまりじゃないですか、そりゃないですよ。そこをやっぱりちゃんとしたものにして、やっぱりすべきだと思うし、やはりそういった方もそうですし、それを取り巻く方もマニアックな方が多い。今後、鉄道ジオラマを中心としたイベントも起こしたいと言ってる。

市長、よく考えてみてください。能生町のトライアスロンも、クラインガルデンも、青海の山岳マラソンも、みんななくなっていったんですよ。それを維持することができない。だから名物にできるだけイベントがあったのに、それを維持できないんです。このジオパルは、鉄道ジオラマは、市長の思いがそのとおりだったら、やはり全国発信して、巨大な鉄道まつりに仕上げるべきです。そのために整備したんでしょう、赤レンガも作った。キハ52を持ってきた。くろひめ号も持ってきた。マニアに言わせりゃね、蒸気機関車を地べたに置くもんじゃないらしいですよ。ちゃんと瓦礫の上に枕木を置いて、展示すべきだというご意見、そういう意見頂いたんで、一応伝えておきますけどね。

マニアの世界ってのは、それだけこだわりが大きいということ。こだわりが大きい分、クラシックカーレビューもそうだけど、裏切らないんですよ、ちゃんとしたものを作れば。でもちょっとしたものがあれば、途端に悪いうわさが広まって、誰も来なくなってしまうんです。ましてや今回、

非常に吸引力のある、人望のある方をやはり首にさせては駄目です。私も何度か会いましたが、貴重な人材ですよ。やはりこれは頭を下げて、もう一度迎えるべきではないでしょうか。いかがですか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり施設とか、ものについては、やっぱり人材が大事であるわけでありまして。人材が、ほぼやっぱり8割を占めるものだと思っております。幾らいいものであっても、機能、やっぱりパソコンと一緒に、幾らいい機能であっても、それを使いこなせる人がいないと駄目なわけでありまして、そういったことを考えたときに、私はやっぱり人材を大切にしていきたいと思っております。私も詳しくは聞いておりませんので、その辺を聞く中で、対処していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

このジオラマ、新幹線の駅を建設するときに、さて1階部分どうしようかというときから一緒に考えて、市長はこうしたいと、それは難しいんじゃないですかということもあった。ただ市長が、それを望むならということで、これは作った。一つの賭けだったと思いますよ。その中において、やっぱり人を集合させるものにやっぱりしていきたい。その思いを最後まで達成してほしいと思うんです。市長も体は一つでございますので、やっぱりそこをちゃんと吸引力のある方にやっぱり作ってきた。

それから、予算の件は、この後の決算委員会でみっちりやるからね。ディディエフだって、社長だって連れてくりゃいいじゃないですか。私に何て言ったか、ちゃんと覚えてるって伝えてくださいね。

こういうものは、固定物というものはね、それをちゃんとやらないと、1回来ればいいってなる。飽きてしまうから。構造物、展示物ってのは、みんなそうです。だから新しい企画、新しい企画やっていかないとなかなか難しいですよ。それらについては全てできるって言ったのが、ディディエフですから。社長に、市長と一緒に会わせてください。今のはディディエフの社長さんが何と云うか。直さない限り、詐欺罪で訴えろと言いなさい。これは絶対に許さないです。この件は、じゃあそういうことで、決算委員会で、またお聞きいたします。

それでは次に、これも飛ばしましてね、いじめ不登校の現状と対策について。

この不登校、前はね、いじめの延長線が不登校、いじめなら治療ができるけど、不登校になると、診察拒否みたいなもんだから、治療ができないんで、ゆゆしき問題だって言われてました。けど、この数は異常ですね。単に原因がいじめだけではないように思われますが、教育委員会としてはどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

今、不登校の数の増加について、ご質問いただきましたのでお答えいたします。

増えている原因ですが、教育委員会のほうで今分析しているところですが、一旦不登校になってしまうと、年度が替わっても、進級しても、なかなかそれが改善されないという現状があります。約8割以上の子供が、前年度不登校であって、また次の年も不登校になってしまうという現状があります。

また、もう一つ大きな原因として、これ推測になるのですが、令和3年から前年度に比べて、不登校の生徒児童が10人増えております。それでは、令和元年、令和2年に何があったかというところ、コロナによる外出の自粛、行事の中止、また学校においても、授業において、子供同士が関わり合う活動の自粛ということをお願いしておりました。

そのような現状から、子供が関わり合う力、人間関係調整能力といいますか、そういうものが減少していったのではないかと分析しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これはやっぱり、コロナも含めた社会的な現象、やっぱりコロナによる3年間による活動自粛というのはやっぱり厳し過ぎです。中学生だって高校生だって、3年あったら卒業します。友人の顔もマスク越しでしか分かりません。楽しい食事の時間にしろ、体育の時間、そこしゃべるんじゃないとかやられます。黙食、黙って食ったっておいしくないよね、せっかくみんなで食べてるのに。いわゆるやりたいという願望を全部抑えられる中において、精神的に異常を来す。もしくは鬱になっていく。これは絶対あり得ます。

今回の不登校の増員は、もちろん中にははじめも当然あります。調べていかななくてはならない。

もう一つには、コロナによるいろんなもの、生活様式、夜中までゲームをやるから朝起きられない、全部含めて。昨日までの一般質問の中でも、例えばフリースクールへの新たな挑戦みたいなものもあった。学校へ行かない子が、フリースクール登校しますか。どのように見えますか、教育委員会では。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

先ほど課長答弁したとおり、今、古畑議員もおっしゃるとおり、昨日、私、答弁しました。不登校の原因といいますか、不登校になっているお子さんのその背景というのは、人それぞれ、本当にその子供の数だけあると思っております。

教育委員会としては、昨日、答弁したとおり、少しでもやっぱり学びの場といいますか、居場所

を増やすというところで、7月に不登校特例校の勉強をしたり、小規模特認校の視察をしたりしてまいりました。

議員おっしゃるとおり、フリースクールを、ただ造れば、子供たちがそこへ行くようになるのかということですが、決してそうではないと私も、教育委員会も思っています。いろんな学びの場を、居場所を増やすことが、要は、社会的自立につながっていくものだというふうに思っています。

ただ、全てが全て対応できるわけではないので、しっかり今ほどの分析もしながら、どの方法が糸魚川にとっていいのかっていうところを、今増えておりますので、今やるべきことはしっかりやらせていただきますが、今後の推移も考えながら、対応していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

今回の不登校の傾向は、非常に複雑怪奇であります。今、磯野次長がおっしゃられたように、一言で言えないんです。だから、少なくともA、B、C、Dの4パターンに分けて、この不登校の生徒にはどうする。ここはやっぱり家庭ごと指導だとか、やっぱりそれをやっていかなくちやいけない。また、指導に当たる先生の教職員も、これ大変になる。で今度は、教職員の立場改善の問題もあるんで。だから今回は、よっぽど教育委員会としてもしっかりと、腰を据えてね、考えるべきだと思います。これはね、また総務文教常任委員会の中で、また詳しく分析していきたいと思いますが、教育長、何かお考え、あったらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

市内で学んでいる子供たち一人一人がやっぱり大切ですし、教育というふうな場面は、発達段階に応じて非常に人生の基盤をつくるための大変大切な機能でございます。そういった意味からすると、不登校でなかなか学校に行けない子供、心の中がなかなか開かないで、なかなか相談もうまくできないような子供も、不登校の子供たちの中にいます。同じように保護者も苦しんでいます。そのような子供たち、保護者に対して、糸魚川市として、行政として、どのような支援ができるか。これは教育委員会だけではなくて、保護者、学校、PTA、みんな総ぐるみでもって、知恵を出し合いながら、課題解決に向かっていきたいというふうに思ってます。とりあえずは、今現在悩んでいる子供たちの支援の充実、支援体制をどのように見直し、改善を図っていくかというのが1つ。それから、今後の先の糸魚川市の方向性みたいなものをじっくりと、しっかりと学びながら、みんなと一緒に検討していきたい。その大きな2本柱で、これから教育委員会、英知を振り絞って、頑張っていきたいと思ってます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この問題はね、さっきも言ったように委員会で、より細かく話していきたいと思います。情熱あるお言葉も、不登校だと聞けないですしね、これからどうしていいのか、現場ともに。ゆとり教育以降、やっぱり教育の現場はおかしくなったと思ってます。やっぱり学校はちゃんと行くもんです。嫌なら来なくてもいいなんて教育なんてあったもんじゃない。サボるのも駄目です。学校は修行の場であり、そして私たちは義務教育です。それを受けるのが義務なんです。受けさせるのも義務ですけどね。子供にはより厳しく、そして優しく寄り添ってやってほしいと思います。

それでは、もう時間もなくなってきましたけどね、今度は人口問題いきます。

人口問題の、いわゆるデータとか、時間もないんでね、やっぱりそういうところから分析していくべきだろうと思います。減少率だとか若者の定着率とか、これまでやってきましたよね。

そこでだ、そういうデータを一つにまとめて、まずはその現状の中身から調べるべきだ。今までも人口の白書を作るべきだということで、国勢調査の具合がはっきりしてから出していきたいと思いますが、という答弁頂きましたが、できましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

白書というところまでできているということではないんですけれども、現在、古畑議員おっしゃるように、データの分析をさせていただいております。例えば市内の3高校の中では、進学する子供の割合が年々増加をしている。そうすると、就職者の割合が減少する。今後も高校を卒業する進学する者の割合は、高い水準を維持するということが全国的な傾向からも分かってくる。そうすると、少子化の中で子供が進学を望む場合には、就職に目を向けさせる、市内就職の数を維持していくというのはなかなか難しいといった傾向が出てくるのだと思っております。これについては、ほかにも結婚の状況だとかも調べさせていただいておりますけれども、そういったところが、白書ではまだ作ってないんですけれども、分析をして、どこにどういう取組をしていけばいいか、どういう施策をしなければいけないかといったところの研究につなげてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

人口対策本部をつかって、プロジェクトチームね、こないだ若くて有能な人材、ピックアップしておいてプロジェクトチームつくればどうだって提言しましたよね。その後どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

前回に確かにそのようなご提言を頂いております。今ほど申し上げたように、現在のところ、まだそういったデータを集めて、まずプロジェクトチームの中で一旦そのデータもお示しする中で、議員ご提案のように若手にもそういったところを示して検討する機会というのが設けられないかといった形で進めていきたいというふうには考えております。若い人から、例えば自分たちだったら、どういう取組があったらいいだろうという視点も大切かというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

全国的に少子化なんです。国や県と同じことやって、全然人は来ないです。だから、それを上回るものを要求してる。だからこれまでも提案してまいりますよね。例えばだ、今子育て支援センター造る15億円と、年5,000万あるよね。あれをほかのものに使おうと思ったら、未満児保育、3歳までの未満児の保育料無償化、さらに給食費の無償化、これできるんです、楽に。そういうことについて、検討したことありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、古畑議員おっしゃった2点、もちろん研究をいたしております。給食費につきましては、年間で総額が約2億円弱ぐらいかかるであろうと。また、未満児保育料を全額減免にすると。そういった場合もやっぱり1億円弱ぐらいかかるような試算となっております。

それで、給食費につきましては、国のほうで支援するといった情報もありましたので、そちらの今動向を見ているところでございますが、一度実行すると、なかなかやめるのは難しい面があるかというふうに考えています。

また、未満児保育のほうは、3歳以上児が無償だという中で、当然そこは検討が本当に必要な部分だろうなというふうに考えておりますが、現状では、まだそこまでの結論に至っていないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

時間がなくなりましたので、また今度、委員会でゆっくりやりたいと思いますが、やっぱり盛んに今回の一般質問でも、糸魚川で産めるようなシステムどういうふうにつくりましょうかと、お医者さん探しますかといっても。

でもさ、健康増進課長、あなた前からおっしゃってましたよね。大きな壁は、1年間で200人の子供を産めるかどうか。これ今の現状で200人子供産むと思いますか。もしもそのラインが達成できない場合は、医者を見つけても、こっちに出来るんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

以前からも説明しておりますように、富山大学からは、医師の派遣の条件として出生数200人ということをおっしゃっておられることを前課長からは引き継いでおります。恐らく理由としましては、採算性の問題、あるいは症例数、お医者さんはある程度そういう症例がないと、そういう病院行きたがらんもんですから、そういう観点から、その200人というのがあるんですけども。昨年、昨年度、令和4年度、糸魚川総合病院で出生した人数は100名切っておりますので、そうなりますと、富山大学からの派遣というのは、難しい状況になります。

また、産婦人科の出産については、間違いなく不採算部門という状況になっておるといふことであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

だから市長、今一生懸命探してる最中であらうございまして、私は、安心・安全な医療を市民の方に届けたいと、その気持ちは分かるけど、言ってること矛盾してますよね。現状では、やっぱりやりたくたってできない現状ってのはある。その現状、出産数をどうすればいいのか。しかも産婦人科だけの問題じゃない。整形外科だってそうでしょう。民間の病院だって、跡継ぎがないから、いなくなったら閉院すると言ってますよ、大きな病院がね。

本当の意味で市民の皆さんに、安心・安全な医療を届けられるのかどうか。理想や希望は、もう市長の熱意は十分分かった。じゃあ具体的にそれをどうすればいいのかだ。問題はだ。さっきの人口問題も全部そうだけど、データに落とし込んで、結局、それを、何が足りないのか、どうすればそれが達成できるのかをやはり検討しなくてはいけないと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしくご指摘のとおり、課題に対してやはりしっかりとデータ分析、また、そういったところをしっかりと押さえながら、施策、方向を示していかなくちゃいけないと思っております。

しかしながら、その上で、市民にとって、市民性、そして地域性、そして今の現状の我々の置かれておる環境の中で判断をしなくちゃいけない部分がございます。そういう中で、なくしてはいけない診療科目であったり、そして我々は、糸魚川市にあった子育ての支援策というものを見据えて

今までやってまいりました。ですから、非常に先進地、向こうの先進地はこういうことやってるじゃないか。こちらの先進地はこういうことやってるじゃないか。そういういいとこだけの、集めてやって、糸魚川市はそれでよくなるか。そうじゃなくて、糸魚川は、糸魚川の必要なものがあるだろう。そういう考え方でやってまして、全て同じ一律のものの判断ではなくて、総合的なそういったことを論議しながら、我々はやっぱり100%できる。一番何が原因かという、財源の問題でございます。いいもの全部やればいいわけですが、そういうものでもございませぬ。その辺の取捨選択しながら、今やっておる中において、市民の声を聞く中で、今産婦人科の医師が足りない。どうしても何とかしなくちゃいけないという中で、それを200を切ったから、採算性はないから、もう諦めるのか。そうではなくて、やはり遠隔地の町としては、最低でも、そこで産んでいける環境は、必要ではないかと。それをやはり今、目の前の本当に今年度のスタートでなくなったということ考えたときに、ぜひともそれは、何とかしてつなげていきたいという気持ちで取り組んでおるわけでございます。働き方改革の中で、どう変わっていくかは分かりませんが、やはりそのように現実の市民生活や行政の運営の中で、そんな考えで、取組をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

問題点というのは、議員としてやっぱり指摘をさせていただきます。

その問題点に対して私はこうする、だから皆さんついてきてくださいというのは、市長の役目ですね。だけど、言った限りは、それにやっぱり全力を傾注し、もう少しでもやっぱり実現してほしい。様々な問題は、今言いましたけどね。

それから、時間ないんですけど、図書館と歴史民俗資料館、この改築計画あるのかどうか、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（山本喜八郎君）

図書館の関係についてお答えいたします。

具体的な整備計画ですか、そういったものは今ございませぬが、今在り方検討等を庁内で行っております。今後は、外部等、専門的な方のご意見等も頂く中で、整備に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それじゃあ、歴史民俗資料館、相馬御風先生は140周年だとか言われるけど、かわいそうですね。暗くて誰も見に行きませぬ。山本喜八郎課長さんには、一緒にお付き合いいただきましたね、

図書館や歴史民俗資料館も見させていただきました。

しかし、やっぱり人はいない。暗い、古い、おぞい。もう図書館なんて看板がもう見えませんね、同化しちゃってるけど。

それでだ。複合施設子育て支援センターのほうには、そういうものも取り入れればどうだという議員さんから提案がありましたよね。そうすれば、こっちの図書館と歴史民俗資料館はどうしましょうかという話になる。この2つを融合して、やはり1つのものに考えていくという発想は、ないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

図書館については、非常に私は、大きな課題だと思っております。設立時には、よそにない、そしてまた、最近になっても蔵書数、また内容についても、他に誇れるものが結構あるわけでありませう。そういうことを考えたときに、図書館をいろんなところと併設するのは、今急に、それはできるのか。やはりもうちょっと本当の図書館、学びというのは、これから将来に向けての図書館は、どういう図書館がいいのか。そういうものを考えていきたいと思っております。

それには、今の場所がいいのかも含めてでございますし、そして、もう一つ言われております相馬御風先生を顕彰しておる、この歴史民俗資料館については、やはり今言われるように、本当にそれに今ほど議員がご指摘したものにプラス、カビも少し臭いもするのではないかなと思うぐらいの雰囲気のところございまして、決してお客さんが、入館者が楽しい環境でいれるようなというのを感じないものではないかな。当時は、それでよかったかもしれません。そういうことを考えたときに、それも含めて場所はどうなんだというところもあろうかと思うわけございまして、相馬御風生家というのをしっかり生かしていきたい部分もございまして、そういったものと、どうリンクしていくかというところも視野に入れなくちゃいけないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

生樹の会でしたかね、やっぱりそういう相馬御風の顕彰する会みたいな皆さんも、やっぱりご高齢になり、もういない方もたくさんいらっしゃいます。

歴史をやっぱり伝えていくということは、人を育てていくということです。先ほど言ってるように、人がいなければ、どんな立派な事業やったって、長続きもしなきゃ、成果も出ません。これで終わりにしますが、よくよく考えていただきたいと思います。

お疲れさまでした。終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。